

第2回 駅まちデザイン検討会 議事概要

日時：令和2年10月29日（木）15:30～17:20

場所：パレスサイドビルディング 8階会議室
（オンライン&オフライン（ZOOM）併用）

1. 開会・挨拶

【都市局街路交通施設課街路交通施設企画室長より挨拶】

2. 議事

（1）第1回検討会において出された意見について

【事務局より資料1に沿って説明】

（2）委員によるプレゼンテーション

・村山委員

【資料2に沿って発表】

（3）駅まちデザインで考慮すべき内容の検討

①委員からの情報提供

【三浦委員より発表】

②第1回検討会での意見と対応方針

【事務局より資料に沿って説明】

③駅まちデザインにおいて考慮すべき内容について

【事務局より資料に沿って説明】

3. 意見交換

【駅まちデザインで考慮すべき内容について、委員はじめ出席者間において意見交換。】

【駅まちデザインにおいて意識すべきこと】

○駅まちデザイン検討の前提条件として、都市全体の交通戦略や都市交通マスタープランで、駅に必要な機能をおさえてから議論するという流れを作ってもらいたい。

○都市全体の機能を高める、その一部として、駅まちデザインという考え方があるということが良いのではないか。駅まちデザインの解決だけではなく、都市全体としてどのようなものを目指し、その中で駅周辺はどういう機能になるのかという考え方のほうが、全体計

画の実態として合ってくる。この関係性が明確になってくるとより実務的な手引きになるのではないか。

- 駅まちデザイン検討にあたって、エリアマネジメントの状況においても重要であるので、それに留意して内容整理されると良い。

[駅まちデザインの進め方]

1. 構想段階

- 現状や課題を整理する場合、課題の見え方が主体によって違うので、構想段階から論点を明確に提示して検討を進めるべきである。
- 構想を描き始めるきっかけのところで、駅周辺の民間開発が進むからなのか、あるいは行政のほうで公共投資を行ってまずは駅のハード整備をやっていくのか、構想段階に入るきっかけの部分の場合分けがあったほうが良い。
- まとめ方がオーソドックスな印象がある。最初の問題点を共有する、あるいは何が起きているのかを皆が理解する、というところに構想段階の第一歩があるのではないか。
- 構想段階で色々な論点が出てきた時に、それについて考えるために社会実験を位置づけると、具体的な空間整備につながるのではないか。

2. 計画・事業化段階

- 事業スキームについて記述するのであれば、市街地整備事業の柔軟な活用や都市再生制度の活用、共同貢献スキームなど、事業制度のことも触れるべきではないか。
- 事業を進めるためには、全体の事業の調整をするという組織が必要なのではないか。

[その他]

- 昔の駅を拡充してつくるというよりも、目新しさもほしい。もっと積極的に、情報拠点として、駅を位置づけていくことによって、駅自身に付加価値をつけていくような打ち出しの仕方ができないか。